

1. 科目名 (単位数)	専門演習 (2単位)	3. 科目番号	EDOT4198
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	3年間履修してきたことを基礎として、選択することが望ましい。		
7. 講義概要	授業の概要は、各教員がすでに示している内容による。		
8. 学習目標	最終学年としてこれまでの授業や実習等で学んだことをもとに、各自が理論的あるいは実践的な課題を設定して担当教員の指導も受けながら自主的、主体的に取り組みその成果をまとめる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各担当教員による。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 各担当教員の指示による。 【参考書】 各担当教員の指示による。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	各担当教員が示す。		
12. 受講生へのメッセージ	最終学年として大学生活を締めくくることが自覚して授業に取り組むこと。		
13. オフィスアワー	各担当教員が設定する。		
14. 授業展開及び授業内容			
01	阿部都乃比 吾不力		
<p>本演習では、個人の SNS 文書投稿について、「情報解析手法」の視点から分析・検討を行う。演習の前半では情報解析手法を通して、「SNS 投稿文書」で取り上げてきた様々な関心課題や個人の感情表現について理解を深める。演習の後半は受講生それぞれが興味関心のある SNS 課題を取り上げ、調査・研究を行い発表する。発表された各関心課題は受講生全員による討議によりさらに深く掘り下げ考察される。最後に各人が取り組んだ情報解析結果をレポートにまとめる。以上の流れで、情報分析の基本的知見を育み、受講者の様々な文書課題について単独で情報分析能力を育つことを本専門演習では主な目的とする。</p> <p>授業では、前週に次週の課題を提示し、受講生はその課題を完了し授業に参加することを前提とする。また、授業は講義の部分もあるが、基本的にはグループ討議と発表に重きを置き、学生が自主的かつ積極的参加をすることが強く望まれる。</p>			
02	阿部 裕子		
<p>本演習では、教育現場で生じている様々な問題について、「比較教育学」の視点から分析・検討を行う。演習の前半では文献研究を通して、「比較教育学」が取り上げてきた諸問題やその視座について理解を深める。演習の後半は受講生それぞれが興味関心のある題材を取り上げ、調査・研究を行い発表する。発表された各題材は受講生全員による討議によりさらに深く掘り下げ考察される。最後に各人が取り組んだ比較教育的分析をレポートにまとめる。</p> <p>本演習は受講生の主体的活動が前提となっている。具体的には、指定された課題を予め完了した上で演習に参加し、演習ではペアワーク・グループ討議に積極的に参加することが強く望まれる。これまでに経験した「教育」現場、例えば自らの学校教育体験、教育実習、アルバイトやボランティア、家庭や地域において感じてきた諸問題について、より深く分析し理解しようとする意欲のある学生の参加を希望する。</p>			
03	石垣 久美子		
<p>本演習は、深刻化する児童生徒の心身の健康問題や、養護教諭の職務に関する文献研究を通じ、養護教諭としての教育実践に役立つ具体的提言を導き出すことを目標とする。各自関心のある課題を設定し、関連研究論文等を調べ、考察したことを15分程度にまとめて発表する。持ち寄った話題については受講生全員でディスカッションを行い、各自の見識を深めていく。発表は一人当たり2回を予定している。なお養護教諭採用試験に関する内容も取り扱うため、受講生は、養護教諭免許状取得予定者であることが望ましい。</p>			
04	坂井 二郎		
<p>本専門演習では、「人間のコミュニケーション」、特にコミュニケーションにおける「聴くこと」について焦点を当て学んでいく。具体的には、「聴くこと」を含む人間のコミュニケーションを形成している諸要因についてまず考えコミュニケーションのモデルについて学ぶ。次に「聴くこと」、特に「傾聴」に焦点を当て、傾聴の種類と様々な場面における「傾聴」の役割について実践を交えながら考察を深めていく。そして最後に授業で扱った「聴くことと傾聴」に関し、各自で調査しさらに考察を深め期末レポートを作成しその成果を発表する。以上の流れで、人間のコミュニケーションにおける「聴くこと」の基本的知見を育み、受講者の興味に応じた「傾聴」実践力の向上を本専門演習では主な目的とする。</p> <p>授業では、前週に次週の課題を提示し、受講生はその課題を完了し授業に参加することを前提とする。また、授業は基本的には傾聴の実践練習を中心にグループ討議と発表に重きを置き、学生が自主的かつ積極的参加をすることが強く望まれる。</p>			
05	坂本 史生		
<p>本演習は、「あそび」をキーワードに「まなび」への考えや理解を深めることを目的としています。</p> <p>関連論文や書籍等の文献研究、「あそび」の理論を取り入れた実践計画を各人またはグループが立て、実際にあそびの実践を行うことなどを通して、「あそび」とは何かについて考えを深めるとともに、教育における「あそび」の意義について考察します。また、「あそび」の視点から「まなび」を捉え直すことで、「まなび」の質を高めることに視点を置いて進めていきたいと考えています。</p> <p>そのため、特に体育科や生活科を中心として「子ども主体の授業づくり」や「子どもの興味関心に基づくまなび」などに課題意識がある学生及び教員免許を取得予定、または子どもとかわることに関心が高く、様々な活動に意欲的に取り組むことができる学生を希望します。(あそびの実践などの際には集中講義とする場合もあります。)</p>			

06	篠 大輔
<p>本演習は道徳教育に関して研究・検討を行う。</p> <p>演習の前半は文部科学省が運営している「道徳教育アーカイブ」内の道徳授業の動画視聴を通して、道徳教育をめぐる近年の動向や道徳教育の理論についての理解を深めていく。</p> <p>演習の後半は受講生が関心のある道徳教育のテーマ・題材について調査・研究を行い、道徳の指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行う。また教職を志望しない者は代替課題として自ら研究した内容のプレゼンテーションを行う。</p> <p>現行の学習指導要領から道徳が教科化され、新たな道徳教育のあり方が模索されている。受講生とともに新たな時代に適した道徳教育について追究していきたい。</p>	
07	澁井 とし子
<p>本演習では、どのようにしたら楽しく興味をもって児童・生徒が授業に臨むことができるのか、学習者の「動機づけ」について考えることを目的とします。</p> <p>前半は今まで皆さんが受けてきた印象的な授業を振り返り、意見交換を行います。その後、第二言語習得に関する文献を参考に内発的動機づけや外発的動機づけ、学習者要因や学習環境等についての理解を深めます。後半は、各自が興味のある教科の授業文献を探して動機づけされる授業内容の発表、討論を行い、どのようにすると児童・生徒が意欲的に学ぶことができるのかを考察します。終盤には今までの学びから各自が考えた理想の授業アイデアを発表します。</p>	
08	二村 泰弘
<p>本演習では、小学校における理科教育を広く扱う。前半は教員採用試験に向けた勉強会を中心に、後半はグループ別による理科の教材研究を進める。勉強会については、受講生が自主的に学習を行い、質問がある場合など、必要に応じて教員が指導を行う。教材研究については、小学校の単元から受講生が興味のある題材を選び、その成果を発表することで、研究力の習得・向上を図る。意欲的な受講生を望む。</p>	
09	古田 高史
<p>本演習では、言語学習について、受講生自身が目標設定や計画を立てて、自律学習を進めていきます。その中で、学習者オートノミーについて考察することを目標とします。</p> <p>まずは、学習者オートノミーについての実践報告や論文を読み、計画の仕方や学習の進め方について理解を深め、目標を設定し、計画を立案します。つぎに、各自が作成した計画にもとづき、学習を進めていきます。その中で、受講生同士での議論を通して、学習者オートノミーについて考えていきます。</p> <p>自ら学習を進めることのできる主体性のある学生の参加を望みます。</p>	
10	別府 結起
<p>本年度の専門演習は、TOEIC 対策演習とする。過去問題を使用し、実際の問題を解くことで中高等学校の英語教諭が求められる 800 点をめざす。また、TOEIC 対策以外の英語を英語で考える活動も行う。小学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭を目指す学生、一般企業に就職希望の学生も英語力の維持・向上のために受講することは可。TOEIC の学習を通して問題に含まれる文法も同時に学習して行く。リーディングの部分は宿題として毎週進めて行く。受講条件として、英語コミュニケーションを履修したことのある学生の履修が望ましい。</p>	
11	松浦 康世
<p>文部科学省の登録を受けた「登録日本語教員」の国家資格制度が創設され、令和 6 年 4 月に施行されました。認定日本語教育機関で日本語を教えるためには登録日本語教員の資格がなければなりません。そして、年に一度実施される日本語教員試験に合格する必要があります。</p> <p>本演習では日本語教員試験の概要を紹介した後、過去問題や練習問題を繰り返し解き、難解な部分には講義も交えて出題範囲を網羅できるよう対策をします。大学卒業後すぐに日本語教員にならなくても、この資格を持つことが将来的に役に立つかもしれません。日本語教育コースの学生に限らず、興味のある人は気軽に挑戦してみてください。</p>	